同心番所（衛兵詰所）

この警護の詰所は、徳川将軍時代（1603～1867）から残存する 3 つの詰所のうちの一つです。同心として知られ

る、巡査に相当する下級武士によって警備されていたためこの名がつきました。同心の職務は城を訪れる人々の検問

と、主人の本丸からの戻りを待つ大名たちの従者らを見張ることでした。屋根瓦には、3 つの異なる紋を観ることができ

ます。葵の御紋は、徳川家の家紋です。その他には天皇家の菊の御紋と、3 つのコンマが渦を巻く三つ巴の御紋があり

ます。三つ巴の御紋の成り立ちは平安時代の終わりにまで遡り、またそれが水を象徴することから火災除けにも使われ

ました。

写真の説明

1. 入場する大名。橋の足元にある建物が同心番所です。

「徳川盛世録」からの詳細（国立国会図書館）